

学校の取組から

各学校のICTを活用した学校運営や授業での取組を紹介します。

西ヶ原小学校 6年理科「水よう液の性質」

児童の前に5つの水溶液が提示されています。それぞれ何が溶けているのか見分けるために必要な実験と仮説をグループで相談します。その際、画面共有アプリの「ジャムボード」を利用することで、いつでも他のグループの計画を見ることができます。

10/13今日の学び
自分たちで必要なもの、やりたい実験を考えて、他の班の意見を聞いて、自分たちの班に戻って、また深掘りすることができた。
次にやりたい実験の水溶液に何が溶けているのかを調べたい。

これまで自分たちが話し合った過程を大切にしてい、他のグループとも意見交換が始まる場面もありました。活動はグループで行っているように見えますが、じつは学級全体で探究しているということを、児童もよく理解しているようです。振り返りにも、その様子が表れていました。

谷端小学校 5年体育「走り高跳び」

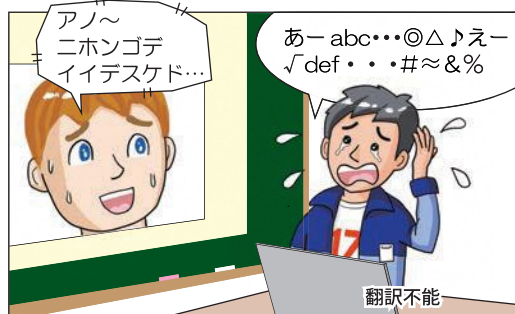
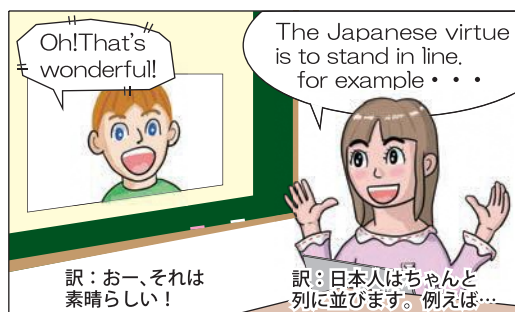
「きたコン」で使えるタイムシフトカメラ機能は、撮影した高跳びの動画が設定した秒数遅れて自動的に再生されます。児童は跳んだ後に「きたコン」の画面で自分の姿を視聴します。跳ぶ様子を客観的に見ることができるので、自分の課題をつかみやすく、課題は次の目標にします。

高跳びのコツはいくつかありますが、それも教え込むのではなく、児童が自分たちで気付くように工夫してあります。自分たちで発見したコツは習得が早く、振り返りには、目標を達成して次の目標を書いている児童がたくさんいました。



きたちゃんコンちゃん

by Toshi



GIGAスクール構想の「協働的な学び」



▶先月号の「個別最適な学び」に続き、今月はGIGAスクール構想のもうひとつのねらい「協働的な学び」について解説します。

▶「協働的な学び」とは、いろいろな考え方があることに気付き、他者と関わりながら新しい価値を創り出して学びを深める学習です。学習活動の範囲は学級の枠を越えて、他学年や地域、さらには世界中にまで広がります。そして、それを実現するためには、デジタルの力で距離や時間を超越してくれる「きたコン」が必須のツールになります。自分の考えを伝えるプレゼンテーションのスライド作りから、文字や画像・動画の交換、Web会議でも交流をすることができるからです。

▶じつは、先月の「個別最適な学び」と今月の「協働的な学び」は、重要な関係があります。一人で学ぶか、みんなで学ぶかの違いだけのように見えますが、そうではありません。協働的な学びの流れは、

1. 自分の考えをしっかりとつ。
2. 複数人で議論するなど協働的に学ぶ。
3. 自分の考えをアップデート(更新)する。

というものになり、すべての場面で個別の学びがベースになります。つまり、「個別の学び」があってこそ、「協働的な学び」なのです。

▶個別最適な学びと協働的な学びを実践した授業を参観すると、子どもたちは一人で調べたり友達と話し合ったり、それぞれが違うことをしています。でも、リーダーが声をかけると集まって活発な話し合いが始まります。先生は子どもたちの伴走者として、子どもが相談にくるまでは口出しせずに見守っています。子どもたちを信じて任せていて、子どもたちもそれに応えている、そんな姿が見られます。